医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	脳中型血管閉塞に対する経橈骨動脈と経大腿動脈による血栓回収術成績の検討
研究責任者	脳神経内科 石井辰仁
研究実施体制	当院のみで実施される研究
研究期間	臨床研究審査委員会承認日 ~ 2027年 4月 30日
対象者	【対象患者】2018年4月1日から2025年5月31日までの期間で、脳中型血管閉塞に対する血栓回収術が施行された患者さん 【選択基準】脳血栓回収データベースより脳中型血管閉塞症例を抜粋 【除外基準】主幹動脈閉塞症例 【予定症例数】50例
研究の意義・目的	脳血栓回収術は患者さんの機能予後の改善に寄与するようになり、標準的な治療となっています。しかしながら、主たるは経大腿動脈穿刺であり、しばしば穿刺部の合併症を経験します。循環器科領域における経皮経血管冠動脈形成術は穿刺部合併症の低さや病変部への到達のし易さから、経橈骨動脈が標準的な穿刺部位となった経緯があり、脳血管分野でも脳動脈コイル塞栓術は徐々に橈骨動脈穿刺に移行しています。デバイス挿入の関係から主幹動脈閉塞症は困難ですが、脳中型血管閉塞は経橈骨動脈アプローチが可能であり、実際に数例の血栓回収術を施行したため、経大腿動脈と比較して有効性や安全性を検討することを目的とします。
研究の方法	2018年4月1日から2025年5月31日までの期間で、脳中型血管閉塞に対する血栓回収術が施行された患者さんに対して、経橈骨動脈と経大腿動脈とを、再開通率、穿刺から再開通の時間、穿刺部合併症率、転帰などを比較することで、安全性や有効性を探索します。
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧ください。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 脳卒中科 石井辰仁 TEL: 053-474-2222(代表) 脳神経内科外来 9:00~17:00 平日